



PICK UP

ハロウィン親子運動会 ～ふれあいでもママもお子さまも楽しもう！～

10月16日(金) ① 10:00～12:00

場所:みんなの交流館ならはCANvas



ハロウィンアイテムを身につけて一緒に体を動かして楽しみましょう♪
ハイハイレースや玉入れ競技、ママさん参加の競技もあるよ！
最後は絆深まるベビーマッサージタイムも♡
ミニフォトブースで写真も撮ってハロウィンの思い出を作りましょう！

【定員】6組様程度、0歳から3歳くらい
(町外にお住まいの親子さんも、もちろん大歓迎！)

【持ち物】いつものお世話セット/水分補給できるもの

【参加費】1000円

【特典】ミニハロウィンお菓子
ハロウィンミニフォトブースでセルフ撮影も

【主催】大熊町ベビーマッサージ教室tetoteto 志賀ようこ @TETOTETO.2024



ならは農福フェス2026



11月7日(土) ① 9:00～14:00

会場:みんなの交流館ならはCANvas

スペシャルゲスト

河本 準一(次長課長)/あばれる君/村田雄浩・映里佳ご夫婦

地元ゲスト

オークリーズ/こども園/榎葉天神龍舞など

グルメブースや体験ブース、作品展示など

榎葉の魅力満載の1日！

ゲストステージに品評会、
恒例の餅まきや大抽選会も開催！

足とお悩みの相談会

① 10:00～17:00

【他日程】10/15,22,29日

靴や足のケア、歩き方の癖などを
足管理療法士にご相談いただけます。

【申込】足管理療法士 金成 望

【電話】080-6058-1546 (要予約)

10/1
(木)

榎葉町舞踏ワークショップ

① 13:30～15:30

初心者歓迎！舞踏で想像力をひらく
全身で楽しむイメージの世界
全四回(1回のみ・途中から参加も可能)
各回定員20名、参加費500円

【日程】9/20,9/27,10/3,11/8

【講師】我妻恵美子

【詳しくは】instagram.com/project_tensui

10/3
(土)

脱毛・シミケア体験

① 10:00～18:00

【料金(初回限定)】

脱毛: KIDS ¥550～

女性 ¥1,100～

男性 ¥1,500～ シミケア(10分): 3,850

【申込】salon and organic iris 郡司圭子

【電話】070-8909-8337 (要予約)

【Instagram】@salon and organic iris

10/6
(火)

姿勢改善の教室

① 10:00～15:00

猫背や肩こり・腰痛など、
姿勢の崩れをチェックしてみませんか？
姿勢のチェック、相談のみの方は無料
施術をご希望の方は、ご予約下さい。

【問合】整体師 朝倉宏之

【電話】080-3121-1077

10/18
(日)

お花の教室

① 18:30～20:00

参加費: 3,500円(税別)/回

※お得なまとめ買いチケットあり

【主催】FukuFarmingFlowers福塚

【電話】0240-25-8709 携: 070-9191-8709

10/22
(木)

PICK
UP

ハロウィン親子運動会

ふれあいでもママもお子さまも楽しもう！

ならは農福フェス2026

榎葉の魅力満載の1日！

施設予約・イベント詳細は、お電話またはHPまで



0240-25-5670



企画・編集: 一般社団法人ならはみらい

みんなの交流館ならはCANvasでの日々を伝える

CANvas LIFE

交流館だより
2026
vol.105
10/1



●CANvasを描く

言葉を受け取り、未来へ繋ぐ
学生たちの心に残る言葉たち

●CANvas clip

交流館の日常で綴るひとコマ

●10月からのイベント情報

各種教室・催しなどを紹介します。

『ならは31人の“生”の物語』展示

一般社団法人ならはみらいと立命館大学が、2015年9月の全町避難指示解除にあわせスタートした「ならは31人の“生”の物語」。町で生きる方々一人ひとりの声を未来へ伝え遺すため、5年間で総勢71名の学生が155名分の言葉を紡いできました。コロナ禍での休止を経て、2022年からはかつてお話を伺った方々の「その後」を追う『アフターストーリーズ』として再始動。あれから7年、暮らしが落ち着きを取り戻す中で変化したもの、そして決して変わらないもの。7年の時を経て紡がれた「今」の物語の展示にあわせ、今回プロジェクトの最後を飾った学生メンバーに、参加のきっかけや現地で受け取った想いをお聞きしました。



大石 好美さん 町の「繋がり」が教えてくれた——小さな一歩の大切さ

大学で憲法や人権を学ぶ中で、将来は地元の静岡で公務員になることを視野に入れていました。地元・静岡も自然災害のリスクが高い地域だからこそ、「災害という緊急時において、人権が脅かされるのではないか」と考え、自分に何ができるかを模索して、復興支援の現場を実際に見たいと思ったのが参加のきっかけです。榑葉町で特に印象に残っているのが「交流館」です。生活に必要な機能が集まっているだけでなく、子どもからお年寄りまでいろんな世代が集まって、人と人の繋がりを深めている場所だと感じました。現地でその光景を見たことで、特別なことじゃなくても「自分の身近なところからできる取り組みがあるんだ」と実感できました。

中村 翔太郎さん 数値や効率を超えた「町づくり」の本質——榑葉町で出会った理想の人間像

大学で環境と都市・インフラを融合させた学問を学んでいます。座学では数値や効率を優先しがちになります。しかし、町づくりには数値や効率だけでは測れない大切なものがあり、それは現地で直接見て人の声を聞かなければ分らないと考え、自分の目で確かめるためにプロジェクトへ参加しました。榑葉町を訪れて最も強く印象に残ったのは、人々の優しさや温かさ、そして前向きで明るい人柄です。インタビューを重ねる中で、愛情があるからこそ、一からのスタートとなった町で復興に向けて立ち上がり、さらに前へ進もうと前向きになれるのだと気づかされました。その前向きな姿勢がシンプルにかっこよく、これから自分が社会に出ていく上での大切な指針になりました。

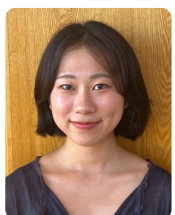


東 和佳さん 被災地を「自分事」にするために——榑葉町の人々の笑顔と強い想いに触れて

東日本大震災当時は幼く被害も少なかったため、震災をメディア越しでしか知る機会がありませんでした。南海トラフ地震が懸念される地元・愛知で大切な人の命を守るためにも、震災を自分事として捉えられるようになりたいと考えたのが参加理由の1つです。また、将来は地方公務員を目指していますが、大学の座学だけでは効率や数字に偏り、住民一人ひとりの生活や思いを見落としてしまう危機感がありました。そのため、現地で人々の声に直接触れたくて参加を決めました。実際にインタビューを行い、約4年間の全町避難という空白の時間や、震災前後で町が大きく変化したこと、失われたものの大きさを強く実感しました。一方で、住民の皆さんが榑葉町を深く愛し、同じ方向を向いて明るい未来を思い描いている姿も印象的でした。困難な時期を経ても「戻りたい」という強い思いを持って生きる人々の姿に触れ、自分にとってすごく大きな、かけがえのない経験になりました。

松山 愛佳さん 「知った気」からの脱却——一文字一文字に被災者の本質的な想いを乗せて

地元・愛知県では大きな地震の経験がなく、これまで震災の教訓を自分事として活かしていない現状に虚しさを感じていました。大学で新聞サークルに所属する中で、被災された方へどう接するべきか不安があり、これから取材やボランティア活動をしていく上で、まずは現場で直接学んでおきたいと思い参加を決めました。実際に榑葉町で過ごし、町の人たちの強い「地元愛」や歴史に触れ、非常に魅力的な場所だと分かりました。同時に、新聞記事などの情報だけで震災や被災された方々の辛さを「知った気」になっていた自分に気づかされました。取材を通して「なぜその人がその想いを大切にしているのか」という本質に向き合う重要性を実感し、今後は一文字一文字を大切にしながら伝える活動へ活かしていきたいと考えています。



山本 羽那さん 一人ひとりのストーリーが織りなす町——阪神の経験から榑葉の未来へ

兵庫県出身で小中学校での防災学習を通じて復興に興味を持ち、将来、災害時に自分自身が現場で力になりたいと考えていましたが、大きな被災経験がない自分へのもどかしさもありました。関西では震災の情報が数字や被害全体に偏りがちで、一人ひとりの想いが見えにくいと感じ、だからこそ現地へ足を運び、被災された方や復興に携わる方々の生の声を聞きたいと思い参加しました。実際に参加し、一人ひとりの物語が集まって一歩ずつ町が形作られていることを強く感じました。住民の皆さんが持つ榑葉町や周囲の人々への深い想いに触れ、共同体として生きる大切さを実感しています。身近な地域では希薄になりがちな人間関係や繋がりの重要性を再認識し、町の皆さんの想いや復興の歩みに触れたことは、今後の自分の課題意識や、防災・まちづくりに対する視点を深める貴重な経験となりました。

2F吹き抜け



【立命館大学のみなさん】

インタビュー記事の整理や執筆など、日々議論を重ねながら作業に取り組んだ交流館の多目的室。プロジェクトの一区切りを迎え、思い出の詰まった空間を見下ろして記念の一枚！

みんなのリビング



【映画「ブルーロック」ビジュアルバナー】

「ヴィレッジ」でもロケが行われた人気作品『ブルーロック』の実写版映画ビジュアルバナーが、「みんなのリビング」にお目見えしました。巨大幕は存在感抜群。来館者が足を止め、写真を撮影するなど、思い思いに楽しむ姿が見られました。

みんなのリビング



【交流館で過ごす憩いの時間】

近くの屋外作業場から、お昼休みにランチや休憩で来館されるご利用者様。「夏場は涼しくて特に助かっています！」とのこと。お気に入りの場所として親しんでくださっており、お子様と一緒に2階のワークスペースも活用されているそうです。

移動販売スペース



【移動販売スペースに「chako kitchen」が登場！】

フードトラックに本格石窯を搭載した「chako kitchen」が交流館に登場！高温で焼き上げる焼きたてピザは、外はサクッと、中はもちりの本格派！購入いただいたものを持ち込んで、交流館で一休みも大歓迎です！次回の出店は10月9日(金)

CANVAS日誌

朝ひと雨ごとに秋の気配が深まる今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。9月はこれまでに前例がないほどの豪雨に見舞われ、多大な被害を受けた地域もございます。この機会に防災について真剣に考え、いざと言う時のために避難場所や避難経路を確認しておくのも有益と存じます。さて、私たちが暮らす榑葉町は、今年で町制施行70周年の大きな節目を迎え、9月5日には記念式典が大々的に開催されました。今後、さらなる進化でみんなの榑葉町を盛り立ててまいりましょう。榑葉町は「スポーツの町」として、体を動かす喜びを大切にしています。雨の日でも、町の象徴である「ならはスカイアリーナ」をはじめとする素晴らしい施設もありますので、天候を気にせず爽やかに汗を流すことで健康促進を図ってみませんか。この記念すべき年を契機に、スポーツを通じてさらに活力ある町へ、皆様と共に新たな一歩を踏み出してまいりましょう。